

ピーク “tajimi”

こんなに登ったよ！



多治見山岳会会報

No. 67号 (2022. 10)

写真提供:月例参加者から

【多治見山岳会にお世話になって】

小森 和彦

早いもので、多治見山岳会にお世話になって9年が経過し、入会以来多くの人と出会いました。スポーツ（登山もスポーツです）の良いことは、それを通じて色んな人と出会うことができることですね。皆さんと出会うことができたのは山をやっていたおかげだし、この出会いは生涯の宝だと思っています（本当ですよ）。

多少の経験を持って入会させていただきましたが、この9年間に会や岳連の先輩方に指導いただいたおかげで色々なことができるようになりました。雪山テント泊やクライミング、バリーエーションルート等、全て初心者の域を出ない状態ですが、自分なりにレベルアップできたかなと思います。会員名簿の番号もだんだん前の方になってきましたので、今まで先輩方にやっていただいたことを、これからは私が後輩会員にやってあげなければいけないと思っています。そこで一昨年からは宿泊山行を始めたのですが、皆さん具体的にどここの山へ登りたいとなかなか言ってくれないので苦慮しています。行き先を決めるのが一番難しいです。

登山の良いところは沢山ありますが、どれだけ自然に近づくかという観点から、山中で一晩を過ごすことは一つの醍醐味ではないでしょうか。テントで寝れば一番自然に近いと思いますが、テントでなくても山小屋で宿泊する、あるいは遠隔地の山へ前泊して登るなど。自分には無理だと思っている人がみえるかもしれませんが、そんなことはありません。私は60歳から登山を始め百名山を制覇した人を知っています。もちろん、登山のスタイルは人それぞれなので押し付けることはできませんが、一歩前へ踏み出せば楽しみが広がります。

高校時代の文化祭で、愛知学院大学教授で登山家の湯浅道夫先生の講演会があり、いつかこの山へ登りたいと考えていれば、チャンスは必ず巡ってくるというお話を記憶しています。私もそうやってちょっとしたきっかけでチャンスに恵まれて登ることができた山がいくつもあります。登山は周囲から与えられた山へ登るものではなく、自分が登りたい山へ登るものですね。自分の思いを口に出すようにすれば、夢の山へ登る機会が向こうからやって来ると思います。



北鎌尾根から槍ヶ岳を望む



残雪期の穂高連峰

山行(月例)・行事報告/予定

令和4年 10月

	概 要		(●済み ○予定)				
月例山行	●4月10日(日)	綿向山	8名参加・・・記事あり				
	●5月14日(土)	水晶山～三森山	11名参加・・・記事あり				
	●6月4日(土)	麦草山～八柱山	11名参加・・・記事あり				
	●7月8日～9日(土)	白山 御前峰	5名参加・・・記事あり				
	▲8月21日(日)	守屋山	・・・荒天のため中止				
	●9月11日(日)	納古山(県スポ兼ねる)	4名参加・・・記事あり				
	○10月16日(日)	入笠山(市民登山兼ねる)					
	○11月6日(日)	養老山					
各種行事	●3月27日(日)	令和4年度山登り教室座学(TYK体育館研修室) 受講者8名					
	●4月	ピーク”tajimi”66号発行					
	●4月6日(水)	4月定例会及び研修会(旭ヶ丘公民館)・・・12名参加					
	●4月9日(土)	令和4年度山登り教室実技(八曾山)・・・受講者8名 会員8名参加					
	●4月10日(日)	県岳連 総会・・・24名参加					
	●4月17日(日)	令和4年度山登り教室実技(鳩吹山)・・・受講者8名 会員8名参加					
	●5月15日(日)	令和4年度山登り教室実技(各務原アルプス)・受講者6名 会員4名参加					
	●5月22日(日)	令和4年度山登り教室実技(納古山)・・・受講者7名 会員8名参加					
	●5月22日(日)	県岳連 止血・三角巾講習会・・・小森参加					
	●6月1日(水)	6月定例会及び研修会(旭ヶ丘公民館)・・・会員16名 他7名参加					
	●6月18～19日	県岳連指導者研修(御在所)・・・小森参加					
	●6月26日(日)	猿投山での新人研修登山 11名参加・・・記事あり					
	●7月10日(日)	県岳連 登山講習会(岐阜市)・・・小森参加					
	●7月16日～17日	栃木国体東海ブロック大会へ役員要請・・・桜田、小森 参加					
	●8月2日(火)	8月定例会及び研修会(旭ヶ丘公民館)・・・13名参加					
	●9月10日～11日	岐阜県スポーツ大会(納古山)・・・選手(桜田、佐藤、後藤) 記事あり					
▲9月23日～24日	梅池・雨飾山 実践登山・・・雨天のため中止						
○10月16日(日)	多治見市市民登山(入笠山)						
個人山行	1月26日	山伏・西日影沢	小森 他2名	7月21日	陣馬形山	佐藤 他4名	
	5月3日	入道ヶ岳	勝尾 他4名	7月24日	田立の滝巡り	校條 他6名	
	5月10日	堂満岳	木股 他2名	記事あり	9月15日	白草山	市原 他3名
	5月28日	飯道山	勝尾 他6名	記事あり	9月16～17日	八ヶ岳	木股 他1名
	6月30日	荒島岳	佐藤 他7名		9月28～29日	御嶽山	勝尾 他2名
会員	令和4年10月期 入会		※ 詳細は新人紹介記事にて				
	竹下 勇(70才)	多治見市脇之島町	在住				
	清水 巖(66才)	多治見市小名田町	在住				
	大野 由夫(69才)	多治見市滝呂町	在住				
	山浦 陽介(40才)	土岐市肥田浅野元町	在住				
令和4年10月時点 会員数		36名(男性19名 女性17名)					

【R4.4 月月例】

綿向山山行 月例リーダーを終えて

4.10

リーダー： 市原 珠代

月例リーダーの依頼があったのは確か今年に入って早々の事でした。3年前のリーダー時は荒天で中止。2年前はまだ早いとお断りし、去年は大嶋さんのサブリーダーを経験しただけでした。今年は絶対来るな！と予感はしていましたが、まさか4月とは。しかも赤く太字で「断らないように」と脅迫されているような文面。断らないけど、でも4月か・・・自分の引き出しが全くない中で山の選定をどうしようか？一番迷いました。



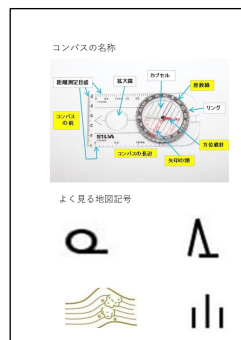
満開の桜と参加者

しかも2月末に計画を発表しなくてはならない。下見の時間は無い。山の状況は大きく変わるだろうと思うと随分悩みました。綿向山の提案を受けてからサブリーダーのお願いも快く引き受けて下さった人見さんには感謝の一言です。

さて、山の選定とサブリーダーが決まったからバンザイとはいかない。下見をしていない状況で計画を発表するし、登山経験の浅い私がみんなを無事案内できるか？どこにどんな危険があるかも予測や判断できない。緊急対応できるか？様々な不安が押し寄せてきました。だったら自分も何かしら学びのある山行にしよう！と決めました。

普段は誰かの計画書に沿って参加し、車に乗せてもらい登山口を案内してもらい、景色を見て感動し登ったという満足感で終えていた自分に反省し、自分で登りたい山に登れる知識を一つでも身につけていける山行にすることは、参加者にもプラスになる事だと思い資料も作りました。

内容はコンパスの名称と地図記号よく出てくる記号を4つに絞る
広葉樹・針葉樹・岩稜帯・荒地
ひとつでも覚えられればOK



駐車場で紙地図とコンパスで行先の方向や今回登る予定のルートはどのなのか？標高差等の確認をしています。

そして土曜日は出勤の方もみえるかと思い、わざわざ日曜日設定にしたのが良かったのか、悪かったのか・・・そこは最後に触れることにします。

当日は現地駐車場から三方向に道路があるので紙地図とコンパスを使ってどの方向が登山口なのか検証してからスタートしました。人見さんからも現在地の標高を地図から読み取れますか？の質問に皆で確認しました。太い等高線と細い等高線から現在地のおおよその標高を割り出し、目指す綿向山の標高から高低差を出す。そうすることで大体のコースタイムも読み取れると言う有難いお話もありフォローして頂きました。

30分ごとに給水タイムやモグモグタイムを設け、ゆっくりゆっくり歩きました。

歩行の速さや危険個所の確認をすることでいっぱいいっぱい、自分が通り過ぎた後方で「あれ～こんな落ちてる」とか「この花なんだろう」って聞こえてきますが、私は一向に気づくことも出来ず登っていました。7合目の行者コバからは冬道と夏道の分岐があり夏道を通ります。所々山道が狭くなっていましたが無事通過。残雪もありちょっと別世界へ来た気分です。急登の階段を登りきると山頂の鳥居がみえて来ました。鳥居をくぐり、祠に手を合わせ山頂の景色にしばしうっとりしました。

山頂で景色を堪能した後はイハイガ岳方面へ。幸福の木の輪をくぐり竜王山との分岐を越し、少し下った所は人も少なく絶好の穴場でゆっくりランチタイムとしました。

満腹になった後の登り返しはちょっとキツイ。

再びピストンで下山しようとしたら人見さんから、「下山は冬道を降りましょう」と提案されました。冬道を下山したので7合目の分岐に到着するのが早い事！

3合目あたりからようやく心に余裕が出来たのか、可憐に咲いてる花が目に入ったり、すれ違った子供たちが作ったと思われるアートに心が和みました。駐車場の側の桜も5日前の下見時は1～2分しか咲いていなかったのに満開でした。

とにかく全員が無事下山し帰宅できたことに安堵しました。ピーク“tajimi” No66 号のタイトルのように一歩前へ進めたかな？と充実した気持ちです。参加された方で一人でも多く「学びのある山行」が出来たと思って頂けたなら嬉しいです。



広々とした山頂からは、雨乞岳・鎌ヶ岳・イブネ・クラシ等々見ることが出来ました。



幸福の木の輪。
みんなくぐって幸せいっぱい
です。



とても可愛いアート
な作品

反省点

- ・計画書を提出する時点で、周回ではなくピストンにした方が良かった。
- ・市岳連の山登り教室の日程と連続になり、月例参加を見合わせた会員もいた。
提案) 会員も初心に戻り山登り教室へ参加＝月例にしたらどうか？
- ・県岳連総会の日程を知らず月例の計画をした。
希望) 年度変わりの頃で、予め決まっている予定は任命したリーダーに伝えてほしい。

【5 月月例】

イワカガミを訪ねて三森山&水晶山を登る 5.14

リーダー：佐藤 賢次

天気予報では、前夜からの雨が朝早くの時間帯に残っている予報でしたので、市役所本庁舎の集合、出発時間を1時間遅らせての月例になりました。

途中 道の駅おばあちゃん市山岡でトイレ休憩したのち岩村ダム駐車場へ到着。駐車場から歩き始め計画を立てた時点では、分岐(鈴ヶ根展望所への分かれ道)から水晶山へ登るつもりでしたが、登り始めからここは急登が20分ほど続く難路な道。昨夜からの雨で登山道がぬかるんでいる可能性があるため、水晶山を経由しないで直に鈴ヶ根展望所に行くコースを取りましたが、この登山道は途中で大量の雨水が流れ下って来る箇所があったため、当日はとでも登れない悪路になっており、結局最初に立てたコースの水晶山経由で登ることになりました。その結果、20分余りの雨上がりのぬかるんだ直登を皆さんにお願いすることになってしまいました。



直登を登り切って水晶山～鈴ヶ根展望所～三森山までは軽いアップダウンを繰り返す道で、三森山を過ぎると今回の月例登山のメインイベント「イワカガミ」の群生地があります。

4月下旬に下見に行ったときは、まだつぼみが多く花が少し咲いている状態でしたが、どうやら開花のピークはGW頃らしくちょっと心配でしたが、群生地ではいくつかの花を見ることができ、又皆さんの歓声を聞くことができてほっとしました。

満開のイワカガミを楽しみたいときはやはりGW辺りが良いようです。

花を楽しんだ後は三森神社展望台まで進んでお昼ご飯。

展望台でのランチタイムは、「農村景観日本一」に選ばれた田んぼが広がる景色を眺めながらのひとときを楽しむことができました。

下山した後は岩村城下でトイレ休憩をかねて買い物タイム。それぞれお酒を買ったり、カステラを買ったりして過ごした後帰路につきました。皆様のご協力により楽しく無事終えることができ、ありがとうございました。

正直なところ、5月例登山のリーダーを突然指名されてしまい大変戸惑いました。

行き先を選定するにしてもどこにして良いのか分からず佐藤能博さんにサブをお願いして決めた次第です。また会員の皆様に案内をパソコンで送信するにしても、パソコンではネットで買い物をする以外に使ったことがほとんど無く、メールにワードで作った資料を添付するといった事も試行錯誤を繰り返しながらなんとかできました。

最初から最後まですべてが手探り状態でしたが、曲がりなりにもリーダーが務まったのは快くサブを引き受けて頂いた佐藤能博さんのサポートがあってこそだと感謝しております。



水晶山山頂にて



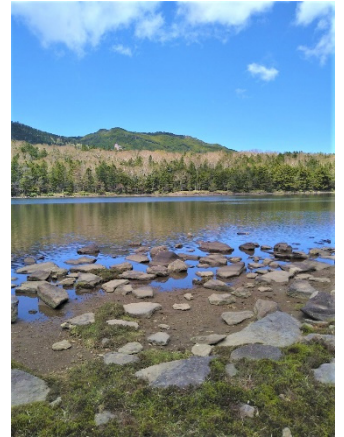
女性は山に「華」を添えてくれますね！

【6 月月例】

恐るべし！ 麦草峠 八柱山山行 6.4

サブリーダー：佐藤 能博

昨年涙を飲んだ「麦草峠～茶白山～縞枯山～雨池(あまいけ)～八柱山(やばしら)～麦草峠」の周回コース。昨年の反省に立ち出発を30分早め朝4時半多治見発で一路麦草峠を目指しメルヘン街道をひた走る。上空は快晴、心地よい気温、これからの景色を想像して気持ちが昂る。予定の7時半に公共 P に着き右折のウインカーを出す。「あれっ、ない！！」一寸の隙間もない P に半ば呆然。一体何時に出れば止められるんだと一人ブツブツこぼす。



ここからは、「もしかして」のコースで考えておいた雨池から八柱山を目指すコースに気持ちを切替える。白駒有料 P に止め、黒曜の森を抜け麦草峠へ。峠からは雨池東岸を目指す。幹が整然と並ぶシラビソ林、空気が澄んでいて気持ちがいい。途中途中で小さな花を見つける石川さんには感心する。峠から1時間ちょっとで雨池が顔を出す。池を正面に茶白山、縞枯山が左に、上空は真っ青な空、新緑の木々と神秘的な池。「計画では、この池の対岸で昼食でした」と、すまなさそうに話す。休憩はそこそこに、未踏の八柱山を目指す。ここで、今日初めての急な登り、息が切れる。頂上には「深宇宙探査用大型アンテナ」が立つ。アンテナは上に向いているのかなと思いきや、水平に向いていて何か変な感じ。展望はカラマツ林にさえぎられよくない。



池まで戻りゆっくりランチタイム。物音が何一つ聞こえず静かな景色の中でのランチに皆さんは大満足。下山途中、時間に余裕があったので「地獄谷」に向けコースを外す。急登、急下降の先でびっくりした景色に遭遇。ここにだけ雪(ザラメ)があり、氷柱まであった。しばしの間景色を楽しむ。(火山活動による噴気口の跡、直径 100m、深さ 30m の円筒状の風穴。冷気がたまる底部には真夏でも溶けない万年氷があるとのこと)思いがけない景色を土産にPまで戻る。

出発から約6時間、10.5km歩きました。私を含めて参加された11名の皆様、朝早くからお付き合いいただきありがとうございました。そして、ドライバーの皆様、運転ご苦労様でした。

雨池



八柱山山頂



雨池東岸



地獄谷



【7 月月例】

お花に会いに白山へ 7.8～9

横尾 尚美



梅雨明けして一週間、何故か大気が不安定。

前日まで天気予報とにらめっこでしたが、参加メンバーと相談して行くことに決定。

AM5:00 市役所集合で出発します。

交通規制前日なので、一ノ瀬を通過して別当出合まで上がります。

駐車場の上段はすでに満車、下段も 8 割ほど停まっていた、さすが人気の山ですね。

登山口で身支度を整え、登山届を提出して出発します。

行きは観光新道、帰りは砂防新道です。

1 日目の目的地は小屋までで、距離は 4.8 キロと短め。

しかしその距離で 1,200 メートル上るので、当然急登の連続。

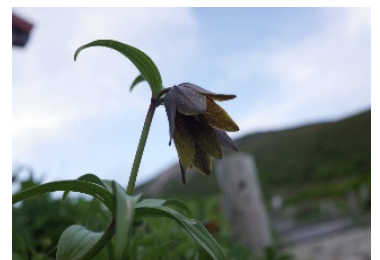
暑さと休みなく続く登りで汗が吹き出し、息が上がります。

なんだかふらつく？熱中症？日射病？ヤバイかも…30 分間隔の休憩を早めて経口補水液とアミノバイタルをチャージ、熱中症対策の講習を聞いておいて助かりました。

しかし他のメンバーは元気いっぱい！次々お花を見つけては写真撮影、花ってパワーをくれるんですね。

樹林帯を抜けて視界が広がるとドーンと別山が現れ、遠くに白山のトレーニングで登った荒島岳や赤兎山も姿を見せます。

更に標高を上げて行くと、色とりどりの花々が咲き誇り、種類、量、本数が半端なく…とても賑やかな山道でした。

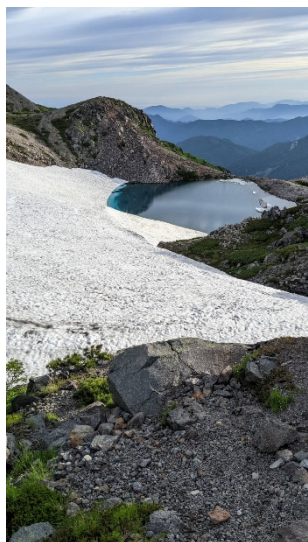


クロユリ

5 時間半かかりましたが、PM2:30 に白山室堂に到着。

県民割が旅行会社のツアーのみ対象なのは残念でしたが、収容人数 750 人の小屋に本日 70 人とのことで、各自のスペースを広く使わせていただけて、トイレも 2020 年に水洗になり快適でした。

2日目はAM4:00 ヘットライトを頭に付けて出発、山頂では眩しい朝日、雲海に浮かぶ御嶽山や乗鞍岳、その左奥には写真に納まりきれないほどの八ヶ岳や北アルプスの峰々を観ることができました。おやつを少しお腹に入れた後、いくつかの雪渓を歩きながら鮮やかなブルーの池を巡り、前日とは違ってお花とも出会い、小屋に戻って朝食を食べてから下山です。



砂防新道は日陰が多いからか、お花は少なめでしたが、よく整備されていて疲れた足には優しい山道でした。

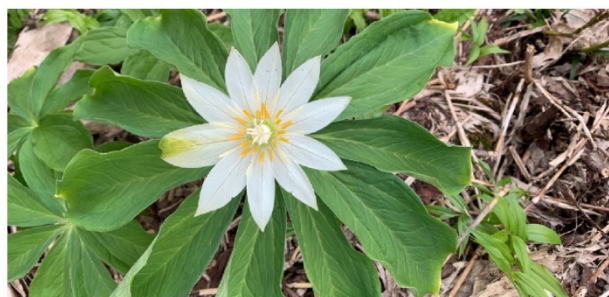
午後から天気は崩れる予報なのに、次々テント装備の若者が登ってきて雨のテント泊大変そうだな〜と思いながら、道を登山者に譲り譲られゆっくり下り、終点の吊り橋が見えた時は、ホッとしました。

駐車場までの舗装路で10分ほど雨に降られましたが、出発を予定より早めて大正解でした。

今回は5人ということもあって、みんなで相談しながら時間やコースを決め、何もかもが上手くいき、大満足の山旅になりました。

室堂の小屋のベンチで、ビールやコーヒーを飲みながらお喋りして過ごした時間がとても楽しかったです。

参加してくださった皆さん、ありがとうございました。



【9 月月例 & 県スポ】

第 14 回岐阜県民スポーツ大会の記録

【次の走者にバトンタッチ】

佐藤 能博



コロナの感染者が収まらない中、美濃加茂山岳会・川重山岳部がホストとなり山岳マラソンが「納古山」の登山道、距離約 3 キロ弱、標高差約 140m の区間で争われた。

定例会でも話題にしたが、3 区分(40 未満、40～60 未満、60 以上)の選手を選出することが難しく、競技に参加するか棄権するかギリギリまで迷った。しかし、これまで何とか競技参加を続けてきたこと、地元開催で優勝経験のある多治見市が棄権することはできないと判断し、老体 3 名が参加することとなった。

68 歳の後藤さんは 40 歳未満の区分で 4 キロの負荷、67 歳の私は 40～60 歳未満の区分で 2 キロの負荷、71 歳の桜田さんは 60 歳以上の区分で三名とも怪我無く無事完走した。この登山道、歩いている時には勾配を感じないが、いざ、走ってみるときついなの。ザックの中の負荷が動くたびに後ろに引っ張られるような感じになり、足がなかなか前に出ない、そんな感覚を覚えた。(結果は 7 市中 7 位。参加の市は高山、大垣、岐阜、関、各務ヶ原、美濃加茂、多治見)

競技終了後、納古山へ集団登山。女性を含め大変多くの参加者で頂上が賑わった。下山後閉会式があり、来年度当番の関山岳会から前日の懇親会から多くの参加を望むとの声があった。(今回は前日から 50 名以上泊まれたとのこと)

集団登山に参加した木股さんご夫妻、横尾さんには、選手の荷物を競技のゴール地点まで台車で運んでいただき助かった。

さあ、来年の大会は、あなたが走るようになります。老体が走れた(歩けた?)から大丈夫、多くの拍手がゴールで迎えてくれますよ！

今年の走者の顔ぶれ



40 歳未満の区分 後藤さん

40～60 歳未満区分 佐藤さん

60 歳以上区分 桜田さん

さて！来年の走者は誰に??



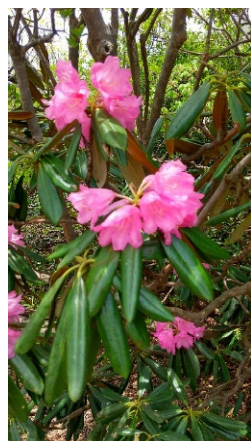
【個人山行】

熟 MEN 石楠花(シャクナゲ)を求めて登る 5.10

佐藤能博

GW明けの平日、休みが取れた木股さんを誘って、比良山系の「堂満岳」に出かけてきました。この山は、当初5月の月例候補を検討する際に「5月なら花をメインにした山行」として大久保さんから紹介して頂いた山です。(琵琶湖の西側まで行かなくてはいけないので遠いかなとあきらめ、月例は三森山のイワカガミとしました)

ここで、石楠花について紹介します。



開花は隔年または2年に一度、裏年には殆ど花が見られない、時期は5月の上中旬とのこと。さあ、現実はどうだったでしょうか。

頂上近く(堂満岳は 1057m)では、真っ赤な花をちらほら見る事ができました。すれ違った登山者の方から「今年は花が咲くのが早い」「花が少ない」と聞きました。確かに頂上から北比良峠の登山道にはシャクナゲ尾根の名前が付いている区間もあり、方々に群生地がありました。(当たり年ならずごく綺麗なはず)。

行程は、多治見 IC を6時少し前に入り北陸道木之本 IC 下車。道の駅藤樹の里で朝食とトイレ休憩、イン谷口(登山口)8時半着。Pは余裕あり。

ルートは、先に堂満岳を登り北比良峠で下りる時計回り。

お昼は金糞峠で下山は 14 時半。

北比良峠(琵琶湖がよく見える)からの下りはダラダラと下りる 80 分。近くの日帰り温泉で汗を流し、木之本 IC から入り多治見 18 時着。登山口 253m、堂満岳 1057m、北比良峠 999m、私のデータでは標高差が 990m、最もきつかったのは堂満岳への最後の登り。これには息が切れ汗をドットかきました。

花メインならGW中かな、そう思いました。



北比良峠



堂満岳山頂にて



北比良峠にて

【個人山行】

飯道山(664m)には岩山の楽しみがありました！ 5.28

林 美代子

滋賀県の甲賀市にある飯道山(はんどうさん)は近江の大峰山とも言われ、修験道の山としても知られているそうです。

5月下旬、勝尾さんが企画して下さり、多治見労山の3名様と山岳会3名で参加させて頂きました。私は岩の山が好きなので、巨岩・奇岩を巡るルートとお聞きし、とても楽しみにしておりました。



飯道山への登山口は数か所あるそうで、最初に行った登山口で出会った方から駐車場から近い場所を教えてください移動、白髭(しらひげ)神社近くの宮町登山口に駐車することにしました。駐車場には大きな鳥居と忍者の里の案内板がありました。

さあ～ 楽しみな山登りの始まりで～ す！

鳥居をくぐり少し登ると白髭神社が左に、そのまま坂を登って行きます。45分くらいで飯道神社の手前に古井戸、弁天堂、行者堂などがあり、宿坊の跡の石垣も残っています。奥に進んで行くと拝殿そして本殿があります。本殿は入母屋造りの檜皮葺き、朱塗りと金箔の美しい姿でした。江戸時代の初期に再建され、その後も修復されているそうです(重要文化財指定)。山腹にひっそりとたたずみ、静かで厳かな雰囲気でした。

まずはお参りさせて頂き、境内の奥に進んで展望岩へと進みます。岩からは山々の景色を眺め次の岩へと下りますが、小さな案内が分かりづらく……。最初の所へ戻り、石段の左の道を少し行くとしっかりした案内板がありました。時計回りに岩を楽しみます。

ここでちょっと岩の説明をさせて頂きます！



【天狗の岩】 下から見上げますが、どこが天狗かな？

【不動の押し分け岩・岩くぐり】 ここはリュックを置いて岩の中へと入ります。労山の3名様はなんなくくぐります。勝尾さんがくぐる事ができれば私も大丈夫とその後を続きます。

【平等岩】 三角錐に鎖があり登って下ります。

【蟻の塔渡り】 左側は岸壁で狭く、大きな岩の間を通過します。

【胎内くぐり】 リュックは背負ったままで岩の中を進みます。中は少し暗く狭くなっています。

【鐘掛岩】 岩上に道があり、鎖を使って登って行き、登りきると

少し眺めを楽しめます。

登山道そのまま歩いて神社へと戻ってきました。行場巡りコースは岩のアトラクションという感じ。登山で岩山を登るといったスリル感はないですが楽しい岩でした。神社の手前の分岐から山頂に向かいます。30分くらいで山頂に到着。ここは少しですが開けていて、三上山(近江富士)や町、遠くに琵琶湖も望めました。

5月下旬、新緑の良い時期で爽やかな風が吹いて、心地よい気分でお弁当を頂き下山しました。楽しい体験の山を過ごさせて頂き、色々な方々と山登りが出来る事に感謝です。計画して下さり有難うございました。



北岳で初めてのテント設営

堀 宏樹

私の思い出の山は、2021.7月に個人山行で友人たちと登った北岳です。毎年この時期は友人たちと1~2泊程度の山行をしていたのですが、この年はテント泊装備を一通り揃えた初めての連泊となりました。

1日目は夜間に出発し広河原登山口から広河原山荘、白根御池小屋を経て、昼過ぎに肩ノ小屋にて宿泊しました。初日はひたすら登りといった感じでした。翌日の御来光を北岳山頂で迎える事に合わせた日程だった為、この日は昼過ぎ頃にはテント場に到着してしまった事も少し足りない感覚が残ったまま終わりました。

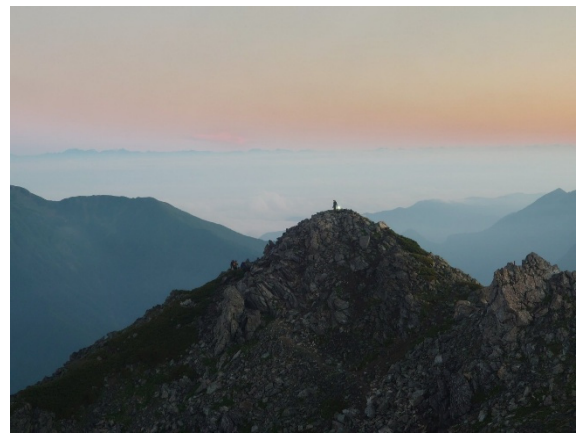
2日目は早朝に出発し、北岳で日の出を見てから中白根山、間ノ山、農鳥岳を経て大門沢小屋にて宿泊しました。夜明け前に北岳山頂に着いたときには既に先客がいる状態で、自分達の後にも日の出狙いの登山者が続々集まってくる状態でした。山頂からの御来光は美しくとても見ごたえがありました。その後は稜線沿いに縦走し、農鳥小屋で休憩した際は「農鳥親父」と有名なご主人ともお話できました。昼頃までは天気に恵まれ山行を楽しめたのですが、夕方近くになると徐々に雨がパラつき始め、テント場で設営する頃には本降りになってしまいました。移動中に天気が持ったのは有り難かったですが、雨の中の設営は中々大変でした。

3日目は早朝に出発し、昼前には大門沢登山口へ到着し下山しました。前日の雨にも関わらず良く晴れており地面もぬかるんでおらず助かりました。5時間程ゆったりと下り続けて、下山し終えた際は終わってしまったと少々名残惜しく感じました。

北岳は日本第2位の高さとも聞いていただけであり、かなり脚にこたえましたが、比較的天候にも恵まれていた事もあって景観も楽しめました。

遠征した甲斐もあり自分の印象に残っている山行です。

次号は、稲垣美奈さんです。



2022年 山登り教室を無事に終える

木股雅典

スポーツ情報紙 TASA2022年3月1日号に「これから始める山登り」～フレイル予防は、山登りから～ 定員8人。対象者は、これから山登りを始めようとする方で募集した。

日程は座学1回と実技4回で、受講者は男性5名、女性3名、年齢は62～76才で幅がある。梅雨前に教室を終了する予定で座学を3月27日(日)にした、コロナ禍であり昼食を挟まず座学を行った。自己紹介では、最近、屋久島トレッキングに行ってきた女性二人組、若い頃に北や南アルプスに行った事がある男性3名、50年前に東京の山岳会に所属していた最高齢76才の男性、初心者の夫婦は、一から山を教えてほしいと考えている。佐藤さんより、フレイル(健康な状態と介護が必要な状態との中間点にある状態)の説明。フレイルにならない予防方法を実践するため、年齢を重ねたら心身の機能が低下しない食事、運動や人と接する社会性を失わないよう注意する事が大切で、山登りはフレイル予防に最適な運動であると力説された。

私は、4回の実技の山を地図を見ながら説明する。毎年1回目は弥勒山でしたが、小森さん一押しのだ山市八曾山周回コース。2、3回は体力を試す鳩吹山から西山の北回りコース、各務原アルプスの迫間山から城山メガネコース、4回目は、毎年1000m級の山に行っていたが、初心者対象なので納古山にし、岩場が数か所ある登山道を説明した。

林さんと井上さんは、山登りに必要な持ち物として靴の種類、カップの機能、ザックに入れる物を自分の道具と服を用意し、聞き取りやすい笑顔での説明をした。登山中に口にする物はスタッフ全員でそれぞれの行動食を見せ、水分はお茶よりもスポーツ飲料の方が体に良い利点と昼食に何を食べるかを説明する。

小森さんは、山で起きるトラブル対応として足つりには漢方ツムラ68が効く事や、熱中症には水分補給が一番。女性の方は山でのトイレを気にして水分を摂るのを控える人がいますがトイレは心配しないで水分を飲む事、トイレはツェルトを使ったりする事を説明する。

1回目の実技、八曾山に向けた説明では、用意する物と集合場所の説明、LINEにR4年 山登り教室をOPENして実技第一回 八曾山の案内を配信する事にした。現地集合を原則とする事をお願いして座学を終えた。受講者の夫婦の方は、家庭事情で実技を欠席と連絡がある。

八曾山は受講者の足が健康な足かを見極めるのにふさわしい山である。位置は市役所から30分と近く明治村の入鹿池東部に広がる丘陵性山地の八曾自然休養村の中に八曾山329.9mはある。

男性4名、女性2名、山教室担当のスポーツ協会1名、入会希望1名、計8名を3組に分け山岳会8名でサポートする。コースは、距離6.2km程、八曾マス釣り場北の駐車場から丘を越えて山の神分岐へ、山の神から小川を渡り登山道らしくなってきた黒平歩道を行き石垣を回って八曾山へ。山頂は展望よく北の方が見える。三角点を探していたら壊れそうな御社があり社の裏にあった。三角点ハンター(私)はカメラに納める。八曾山から山伏の滝の下りは急であり久しぶりに山を歩く受講者は、登りでなくて良かったと思っただろうか。山伏の滝を初めて見て立派で感動した。落差18mあり、梅雨時期の滝つぼをうならせる轟音は凄いだろうか。また来たくなる。滝からの急な登りを登り切った所からヘリポートへの林道に出る。林道は陽当たり良く満開のツツジを見ながら広いヘリポート到着、360度展望の東屋で昼食をする。

40年位前のブルーのキャンピングガス製ストーブでポコポコと湯を沸かしてコーヒーを飲み、遠い

昔を思い出しているご満悦の受講者が見えました。

ヘリポートからの林道を戻り登山道に入り少し登れば岩見山に着く。西に焼山の岩場が見える。急な下りを沢まで降りると谷はいい匂いに包まれている。沢沿いをアウトドアベース犬山キャンプ場へ行くと匂いはタキ火であると分かる。キャンプ場を抜けると駐車場に着いた。

受講者には急な登り、急な下りでは、八字歩行を実践して教えた。キャンプ場で76才男性は疲れが足にきた様で桜田さんがザックを預かりストックをロープ替わりにバスケットを引張った。緊張の中、八曾山のいい展望と山伏の滝の実技1回目を終えた。

実技2回目、鳩吹山領域の恒例コースは、カタクリ登山口からの急こう配を登り西山北廻り西山東屋で昼食しカタクリ登山口に戻るコース。アップダウンが適度にあり受講者の体力が試される。受講者は、男性3名、女性2名、スポーツ協会1名、入会希望1名、計8名を2組に分け山岳会8名でサポートする。カタクリからの急な登りは、時間を掛けてゆっくり足を運ぶ様に受講者に声掛けした。76才男性は、西山北廻り分岐から北回りを止めて西山東屋までに変更し佐藤さんが、付き添い歩いた。帰りの小天神展望台からの下りは、私が前を歩き76才男性を挟んで佐藤さんが後についた。岩が出ている所は、疲れて足で下れない為、尻を着いて下った。実技2回目鳩吹山はきつかったとの声を聞く。76才男性より皆様にご迷惑をかけてもと実技3、4回目を欠席と連絡がある。

実技3回目、各務原アルプス領域は、令和3年度と同じコース。各務野自然遺産の森駐車場から標識分岐まで登り多賀坂峠に下る。迫間山(はざまやま)に登り明王山(みょうおうざん)の巻き道を行き稜線を城山まで行く、明王山に戻り山頂で昼食、金比羅山(こんびらやま)から下り車道を横切って急坂を下り駐車場に戻るコース。受講者は男性3名、女性2名、入会希望1名、計6名を2組に分け山岳会4名でサポートする。当日は、ふどうの森トレイルラン2022と重なりトレイルラン選手とのスレ違いでは、大きく道を譲りガンバレ、ガンバレと選手にムチを打つ。膝から血がにじんでの選手、テーピングが凄い選手も猛スピードで駆け抜ける。少し背丈が違う小学生の女の子が二人駆けて行く。姉妹だろうかと思っているとお母さんが後を追う家族での参加。圧倒されて声も出ません。トレイルラン選手を応援しながらの実技3回目も無事に終わった。

実技4回目は最終回、納古山です。受講者4名、スポーツ協会1名、入会希望2名、計7名を山岳会6名でサポートする。コースは、道の駅ひちそうに駐車して国道41号を渡り舗装路から林道を行き登山口から中級コースを登るこのコースは納古山山頂の途中に岩場がある。岩に取り付く前に岩登りの基本技術である3点確保(3点支持)を説明「手足4点が、岩を掴んでいる体勢から手足1点を動かして登る」これを実践した。また次の手がかりと足場が良く見える様に、岩にしがみ付かないで体を岩から離れた方が、岩をとらえ易いと教えた。教え方が良かったのか受講者が優秀だったのか岩場を無事に通過し山頂到着。昼食と山頂記念写真を撮り初級コース尾根道を下りる。実技最終回も怪我無く終えることができ、受講者からは「これで終わるのはもったいない」との声を聞く。今回、天候にも恵まれ良い山登り教室でした。お手伝いをして頂いた方々ありがとうございました。



実践1回目 八曾山 4/9



2回目 鳩吹山 4/17



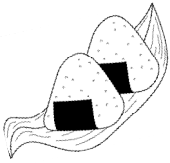
3回目各務が原アルプス 5/15



最終回 納古山 5/22

【新人研修】

猿投山 山飯は美味しかった！6.26



研修参加者のコメントより



●初めての猿投山に参加させていただきありがとうございました。体力的に自信のない自分でしたが、山岳会スタッフの皆様にも励ましや勇気をつけて頂き、何とか無事に終えることが出来ました。皆様に感謝です。ありがとうございました。

●山登りは達成感だけではなく、作って食べる楽しみも有り。また体と相談しながら、効率的に登るコツが有ることを学びました。ありがとうございました。

●皆様のお陰で美味しい豚汁が出来ました。ポンカス井も上々の評判でした。

山女子は手料理が上手ですね。山登り教室の皆様も、山で消費した以上に食べてしまうという嬉しい悲鳴が聞こえてきました。入会検討中の皆様への誘惑も忘れずにおきました。さて、結果は期待できるかな？



●守屋山参加します。

今日は食べ過ぎ反省です(無念)。アップダウンの連続した山歩きの経験ができ良かったです。

●今日は、大変な山登りでしたが、元気に無事に自宅に戻れて、良かったです。

皆様には、ご迷惑をお掛けして、申し訳御座いませんでした。桜田会長様には、感謝、感謝です。ありがとうございました。次回は、ご迷惑を掛けない様、S様、O様 二人で私を鍛えて、ご指導して頂けます様に、お願い申し上げます。

●自分の心拍数が正確に測定できなくて困りました。普段から自分の心拍数を把握しておくべきでした。昼食係としてみんなで協力、また美味しそうに食べる笑顔で疲れもとんでしまいました。人数分×0、7くらいが調度良いのではないかと感じました。

●皆さん 今日はありがとうございました

蒸し蒸しとウダルような暑さ。汗をかき体重減少期待と思いましたが…

昼🍱4個、飯ごう飯1皿、豚汁2杯で逆に太りました😅(ひやひや)

体重増加はTさんに朝一発で見破られ今日から食生活注意警報発令です(無念)

Tさん！ 涙がこぼれてとまらない時は、丘を登り空を見あげれば何とかかなります。

😅(ハハハ)

来月は海上の森を一緒に歩きましょう。





●登山でバテ予防の研修をしていただき、心拍数、カロリー、水分補給については、具体的な数値も示され、改めて注意すべきことが分かりました。面倒さがりやの私は登山中に緻密な計算はできそうにありませんが、3項目について今まで以上に気を付けていきたいと思います。



●とにかく、蒸し風呂状態での山行でした!!

●桜田会長、山岳会の皆さま今日もありがとうございました。汗一杯出しましたが、昼ご飯たくさん頂き体重プラスです。Tさん、最後までよく頑張ってみえました。仲間皆で登れる脚を作っていきます。7月0さんと計画します。

●まず初めに、この度は、自分の体力不足、知識不足で皆様にご迷惑をお掛けして、大変申し訳ございませんでした。会長様には、筆舌に表せないほど、介護を数えきれない程して頂き無事、自宅に帰る事が出来ました。自分の人生で、言葉に言い表せない程、悲惨、苦痛と最高の感激を同時に味わいました。8月の山登りまでには、佐藤様のご指摘して頂いた減量を目指して、会長や佐藤様に付いて行きますので、宜しくお願いします。それでも、駄目なら遠慮なく、首にして下さい。

●バテを軽減する登山の方法を理論的に教えていただき、勉強になりました。途中、パルスオキシメーターで、自分の酸素飽和度と脈拍を測ってもらえ、とても参考になりました。飯盒でのご飯の炊き方、昔々にやりましたがすっかり忘れていました。かなり早く炊けるのでびっくりしましたが、他の食事の支度をしていたので、ゆっくり習えませんでした。また機会があれば、宜しくお願いします。桜田会長、ありがとうございました。

●新人研修は会員、入会希望者のコミュニケーションの為、研修登山とランチ会を企画し、ランチ会は大嶋さん中心に豚汁をお願いしました。普段と違った交流が図られたと思います。蒸し暑かった為体調不良者が出ましたが、驚異の頑張りで頂上下のランチ会場まで辿り着きました。楽しみにしていた会員の手作り豚汁が完売で頂けなく大変残念でした。研修課題は「バテない山の歩き方」でしたが山歩きでは永遠の課題です。また機会を作って研修しましょう。



【新会員の紹介】

大野由夫

今年の「山登り教室」を経て、10月多治見山岳会に加入した大野由夫(おおのよしお)です。



雄山頂上 後は剣岳
(右側が私です)

私は名古屋市守山区の出身で、30年ほど前から多治見に居住しています。昨年、友人グループとコロナ禍の合間に「西穂高岳独標」、立山の「雄山と奥大日岳」登山をしました。2回とも雲ひとつない天候に恵まれ北アルプスの眺望を満喫しました。

10月初旬に行った立山は温泉と紅葉も楽しむことができ、記憶に残る登山となりました。再びこのような思いに浸り、山に登ることができたら楽しいだろうナア、素晴らしいだろうナアと思いました。この事が多治見山岳会加入の動機です。

私は、来年70歳になります。60歳で勤務先を定年退職。それから再任用で4年間同じ職場に勤務しましたが健康上の理由で退職しました。その後、自身の健康も回復し親を見送り子供2人も独立したので、これからの人生は自分の楽しみを増やし元気に過ごすことが大切だと思いました。

登山は「無理せずケガせず無事帰宅」が一番と思っています。皆さんよろしくお願いします。

【新会員の紹介】

清水巖

10月より多治見山岳会に入会させていただきます清水巖(しみずいわお)です。
体力維持、健康増進を目的に登山に取り組んで行こうと思っています。

会社員時代、登山が趣味の同僚から声をかけて頂き、時々一緒に山に連れて行ってもらっていました。その時は安全な登山計画、宿泊などすべてお任せ、お客様状態で言われるまま準備だけして山登りしていました。

数年前、白馬岳に連れて行ってもらい、快晴の中稜線歩きした時の自然の雄大さ、美しさに感動した事が忘れられず、いつか自分自身で計画出来るようになりもう一度山登りをしたいと思うようになっていました。

そんな思いを家族に語っていたところ、妻が多治見市スポーツ協会主催で山登り教室が開催される事を知り勧められ参加しました。

今年3月に山岳会の皆様から座学講習で山登りに必要な基本的な事を教えて頂き、4月～5月計4回実技で鳩吹山、納古山などに山岳会の皆様、参加者と一緒に登らせて頂きました。

山頂での達成感、充実感、山での食事が美味しく、楽しい時間を参加者の方と過ごすことが出来ました。自分の求めていたものが再確認でき、山岳会に入会し経験を積んでいきたいと思いました。



山岳会に入会させて頂き山登りのさらなる知識習得に努め、安全を最優先に自身で計画出来るようになって山登りを楽しんでいこうと思っています。

ご迷惑をお掛けすることも有るかもしれませんが、初心者という事で大目に見て頂きご指導よろしくお願い致します。

【新会員の紹介】

竹下勇

この度、多治見山岳会に入会させて頂きました竹下勇(たけしたいさむ)です。年齢は、満70歳。入会のきっかけは、多治見市広報に山岳会体験コースが記載されていたので、減量の為、参加しました。その時の体重は 84.50kgs。でした。

今から、51年前、大阪在住の頃、若さ故、北アルプスや南アルプスなど、友人3人で登山を自由気ままにしておりました。期間は 2~3 年間だけです。その後、社会人になり多治見に仕事の関係で移住して全く、51 年間は登山はしておりません。その時の体重は 60kgs 位でした。

昔の記憶で、400m 前後のハイキングコース位の低い山など、全く問題なしで登坂出来て、簡単に体重を減量出来ると、たかをくくっておりました。然しながら、第一回目の体験コース令和 4 年 4 月 9 日「八曾山」で、下山終了後、集合場所の駐車場で気を失う程、疲れ果ててしまいました。

更に、6 月 26 日「猿投山」の時は、私一人だけが途中で熱射病に掛かり、山頂手前で全身が痙攣して歩けなくなりました。この時、桜田会長様が、付きっきりで私を介抱して下さい、そのお陰で下山する事が出来ました。

この時の、「口惜しさ」「無念さ」「自分自身の阿保さカゲン」が身に染みる程、体感する事が出来ました。

その時に思ったのは、今後もこの素晴らしい山仲間と同行させて頂くには、自分自身の精神、体重の改造しかないと思いました。

その猿投山事件を契機に、毎日、体、精神の改造を行い、今は体重減量に励み 2 ヶ月弱で 5.50kgs の減量に成功しました。現役でまだ仕事をしておりますが、朝 4 時過ぎに起きて、毎日体に 3kgs の負荷を掛けて、山仲間にご迷惑を掛けないように、且つ、一緒に連れて行って頂けるよう励んでおります。

第一目標の減量は約 9.5kgs で、今は 5.50kgs 減量出来ました。これから、1 年位掛けて残りの 4.0kgs の減量を目指しております。

最後に一言、減量の為に山登りをする考えは間違っておりました。

山登りをする為に、減量をするものだと思います。

私も、今後、更に歳を取っていきますが、歳相応に登山が出来る様に、ご指導頂ければ幸甚に存じます。



【新会員の紹介】

山浦陽介

初めまして、土岐市の山浦陽介(やまうらようすけ)と申します。



昨年の5月から笠原体育館の多治見市スポーツ協会で働いています。

今年の山登り教室に参加し、多治見山岳会に入会させていただくことになりました。

元々は福井県出身で、陶磁器を学ぶために多治見に来ました。学生時代はバレーやサッカーの球技中心にスポーツをやっていましたが、最近では仕事が忙しかったため、運動することが少なくなっていました。

ここ最近は特にコロナ禍で外に出る機会も減り、体もなまってきたと思っていた矢先、山岳連盟の山登り教室の事を知りました。

子供のころ家族で何度か立山などの山に登った経験はありましたが、本格的にやるには知識が無いため難しいと思っていました。

講習に参加してみると丁寧に教えて頂けて、実技での登山でも初心者に合わせて実技内容も組んで頂いたことで、山登りの面白さを感じました。特に登山口から頂上まで、登って行くごとに周りの景色が変わっていくことが面白く、また皆さんと違う景色を見たいと思いました。

個人での陶磁器制作の活動もしているのですが、なかなか体を鍛える時間が取れるか心配ですが、山に登る目標が出来ると、自然と体を鍛えたり準備することに意識が向くから不思議です。また一緒に登る皆さんも準備していると思うと心強いです。

この機会を生かして今後も体を鍛え、山登りを続けて行きたいと思います。
分からないことが多々あると思いますがよろしくお願いします。

写真は、山登り教室実践編「鳩吹山」の時のものです。

【 山には癒しの湯がある 】



今回は、近場の温泉を紹介させていただきます。

美濃市内より車で板取川沿いに50分程走ったところにある、「板取川温泉」です。

所在地は関市板取にあり、多くの会員が月例登山、あるいは個人山行等で入浴されたことがあるかと思います。

近くには、古くから信仰の山として知られる高賀神社から登る高賀山(1,224m)や美濃市片知溪谷にある瓢ヶ岳(1,162m)、さらには、驚愕の巨木、株杉群生地で有名な燕山(1,068m)があり、下山後に“ちょっと一汗を流そうか”と利用される温泉です。

板取川は、日本のスイスと称されるほど水が綺麗なため四季折々においてアウトドアスポットとして知られ、特に春先から夏場にかけては、紫陽花鑑賞、キャンプ、鮎釣り、また数年前からモネの池散策など行楽を楽しむ多くの老若男女が訪れ、併せて温泉利用客も途絶えることが無いと聞きます。

温泉は、ヌルヌル・とろとろのpH8.5のアルカリ温泉で、大自然に抱かれた露天風呂が自慢とされ、温泉に入るだけでクレンジング効果があり、肌の乾燥を防いで保湿効果も高い美肌の湯として知られています。



板取川温泉



前号で紹介した「ひまわりの湯」に似たヌルヌル感にとっても癒されます。

しおりには、露天風呂は、板取川のせせらぎに耳を傾け、お湯の中から眺める景色は最高と紹介されていますが、塀に囲まれておりその点は期待外れですが、広さもあり雰囲気は十分味わえます。また内風呂は程良く深く、くつろいだ雰囲気が漂う浴室となっています。ちなみに平日の利用料金は600円です。

なお、少しお金に余裕がある富裕層の会員には、更に奥に入った神明温泉「すぎ嶋」がお勧めです。

板取のアユ料理に舌鼓みしながらの温泉の入浴は最高です！

(文：後藤正明)



神明温泉 すぎ嶋

山行記録

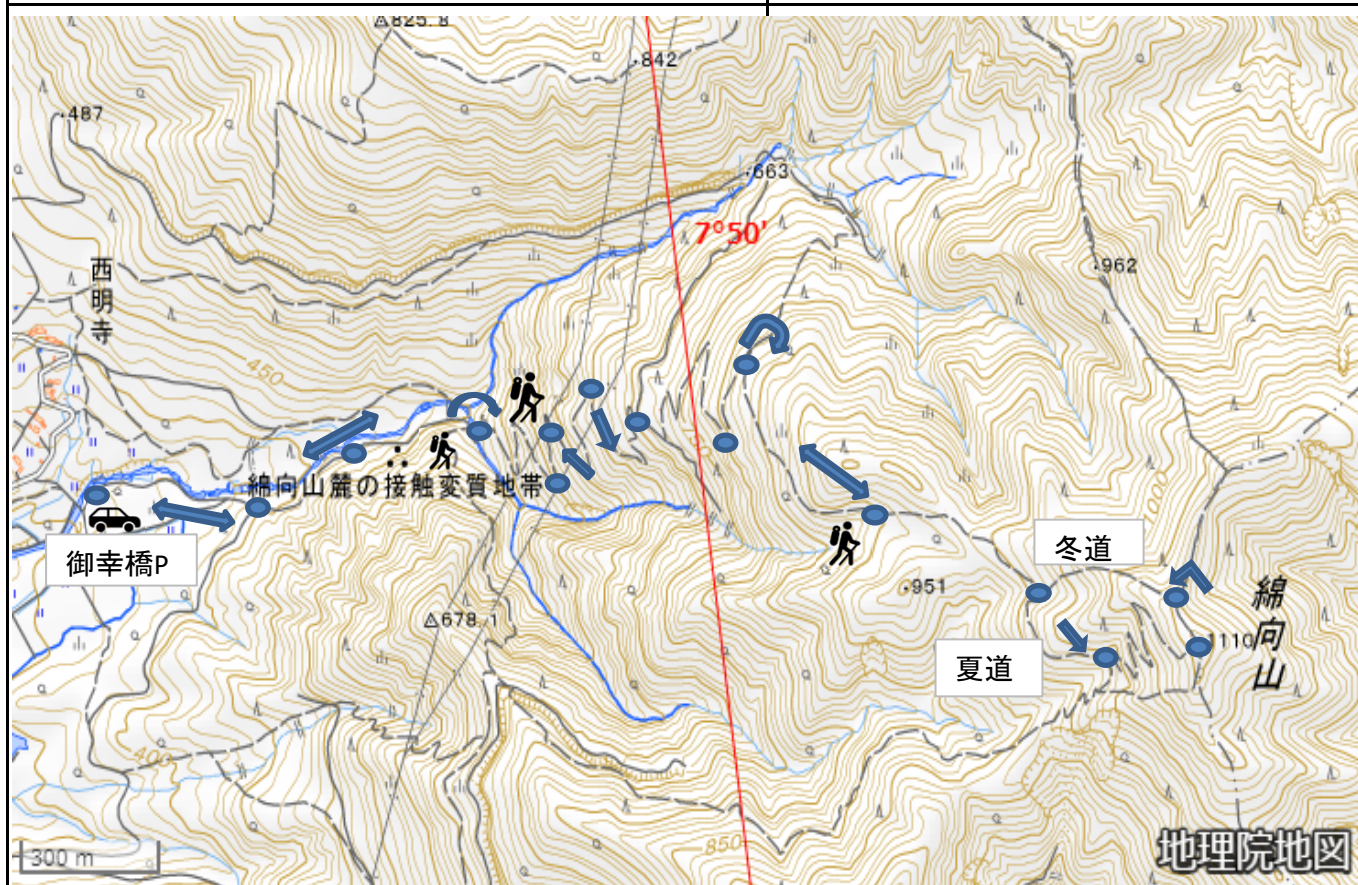
山名 令和4年4月月例 綿向山(わたむきやま)標高1110m 滋賀県蒲生郡日野町

地図 国土地理院地図より

期間	令和4年4月10日(日) 日帰り山行		天候: 快晴
交通機関	会員の車(佐藤賢、人見)の車2台に分乗		
担当	CL	市原 珠代	
	SL	人見 嘉美	
	記録者	佐藤 寿恵	
	会計	稲垣 美奈	
会計	会費	3,700 円/1人	
参加者	男性 2 名	人見、佐藤賢	
	女性 6 名	市原、石川、稲垣、大嶋、杉山、佐藤壽	

<概念図>(ルート図)

月/日・時刻・ポイント



コースタイム

4:50 GU横駐車場(陶器祭りと重なり市役所Pから変更)

6:50 御幸橋駐車場着

7:20 登山口発

山頂までに5回休憩 山頂に至る分岐で夏道を利用(この時期は通せんぼしてあったがぐり抜け)

10:28 山頂着 少し下って昼食(10:55-11:30 山頂発) 帰りは山頂から分岐まで冬期限定ルートを利用

13:30 御幸橋駐車場着 この後日帰り入浴後 多治見着17:05

<特記事項>

①九合目から山頂までの階段がきつい、山頂に鳥居あり

②山頂は360度見渡せる

③登山道にある小屋はきれいでした、お花もたくさん見れました

山行記録

山名 令和4年5月月例 水晶山958m～三森山標高1100m 岐阜県岩村町

地図 国土地理院地図より

期間	令和4年5月14日(土) 日帰り山行		天候: 雨上がりの曇り～薄日
交通機関	会員の車(佐藤賢、後藤、佐藤能)の車3台に分乗		
担当	CL	佐藤 賢次	
	SL	佐藤 能博	
	記録者	佐藤 能博	
	会計	石川 由美子	
会計	会費	1,200 円/1人	
参加者	男性 4 名	佐藤賢、佐藤能、後藤、石川貴	
	女性 7 名	石川、稲垣、大嶋、杉山、黒田、校條、井上	

<概念図>(ルート図)

月/日・時刻・ポイント



8:30 市役所発
(道の駅おばあちゃん
トイレ休憩)
9:46 駐車場発
10:26 水晶山
11:10 鈴ヶ根展望所
11:56 三森山
12:10 お食事
13:34 駐車場着
(帰りに岩村城下町
歩き、買い物)
15:30 市役所着

コースの特徴

- ① 駐車場から歩き始め、分岐(鈴ヶ根展望所への分かれ道)から水晶山へ上るコースは直登
- ② この直登を経験すれば、後の登りは緩く感じる
- ③ 鈴ヶ根展望所から三森山まではアップダウンを繰り返す
- ④ 三森山を過ぎるとイワカガミの群生地がある(開花のピークはGW頃かな?)
- ⑤ 反時計回りが正解(食事時間がちょうどいい、農村風景日本一を見ながらお食事タイム)

<特記事項>

- ① イワカガミは4月下旬から5月上旬との看板あり。月例時は1週間遅かったような感じ。
- ② 笹の花がこれから咲くのを見ることができた
- ③ 帰りに岩村城下の街並みを見学できる(観光客用のトイレもある、酒もカステラもある)

山行記録

山名 令和4年6月月例 麦草峠⇄八柱山(やばしらやま)2,114m(長野県佐久穂町)

地図

期間	令和4年6月4日(土) 日帰り		天候: 晴れ
交通機関	会員(佐藤能、佐藤賢、木股)の車 3台に分乗		
担当	CL	佐藤能博	
	SL	木股雅典	
	記録者	黒田直美	
	会計	木股真弓	
会計	会費	4,700 円/1人	
参加者	男性 4名	佐藤能、木股雅、佐藤賢、勝尾	
	女性 7名	稲垣、佐藤寿、大嶋、石川、校條、木股真、黒田	

<概念図>(ルート図)

月/日・時刻・ポイント



- 4:30 多治見市役所出発
- 6:25 諏訪SA(朝食・トイレ休憩)
- 7:30 麦草峠駐車場
- 7:35 白駒池入口駐車場
- 8:20 麦草ヒュッテ
- 9:30 雨池
- 10:05 八柱山山頂
- 10:50 雨池(昼食40分間)
- 12:45 地獄谷
- 13:15 麦草峠
- 13:45 白駒池入口駐車場

<コースの特徴>

- ①当初予定していた茶臼山と縞枯山は登らず、麦草峠、雨池を經由して八柱山へ登る。
- ②麦草峠から雨池までは木道と石ころの道が多かった。
- ③コースの途中所々で「コミヤマカタバミ」や「ショウジョウバカマ」などの花が咲いていて目を楽ませしてくれる。
- ④雨池から麦草峠へ戻る途中で「地獄谷」に寄り道。谷底は雪渓となっていて思いもよらない不思議な景色が広がっていた。

<特記事項>

- ①4時30分に多治見市役所集合・出発し、7時30分に麦草峠Pに到着したが、満車だったため、白駒池入口Pに駐車。

山行記録

山名

7月月例 白山 御前峰(2702m)

地図

国土地理院地図より抜粋

期間	令和4年7月8日(金)～7月9日(土)		天候:	晴れ
交通機関	自家用車			
担当	CL	横尾		
	SL	木股雅		
	記録者	市原		
	会計	大嶋		
会計	会費	3,600円/1人 小屋代、入浴は個別支払い		
参加者	男性 1名	木股雅		
	女性 4名	横尾、大嶋、石川、市原		

＜概念図＞(ルート図)	月/日・時刻・ポイント
	<p>7/8</p> <p>5:00 多治見市役所出発 土岐多治見南IC—白鳥IC 九頭竜道の駅 トイレ・朝食休憩</p> <p>9:00 別当出合(観光新道)スタート</p> <p>12:30 殿ヶ池避難小屋 昼食</p> <p>14:00 黒ボコ岩</p> <p>14:30 白山室堂</p>
	<p>7/9</p> <p>4:00 白山室堂出発</p> <p>5:00 御前峰 お池めぐり</p> <p>7:00 白山室堂にて朝食</p> <p>7:45 下山開始</p> <p>8:10 黒ボコ岩</p> <p>9:30 甚之助避難小屋</p> <p>11:50 別当出合着</p> <p>12:45 白峰温泉総湯にて入浴</p> <p>17:30 多治見市役所着</p>

＜特記事項＞

- 平日は登山口付近の駐車場を利用可能
休日は市ノ瀬ビジターセンターに駐車しシャトルバス(1600円)を利用しなくてはいけない
- 観光新道は花畑だった。例年より2週間ほど早い開花状況との事
- 殿ヶ池避難小屋 トイレあり 水場無し
- 甚之助避難小屋 水洗トイレあり 水場あり
- 中飯場 トイレあり 水場あり
- 7/8の宿泊者は70名との事。5人で一部屋利用できた
- 翌日の天気予報が正午には崩れるようだった為、急遽予定変更した。下山直後に降雨となった。
- 白峰温泉総湯 牛乳販売無かった
- 帰路は「越前おおの 荒島の郷」にてお土産購入や昼食を済ませた

〈編集後記〉

月例リーダーになってみて気づく、山選定の段階から得ておいた方がよい情報や先輩たちからのアドバイス、山岳会会員間のコミュニケーションの必要性、計画書の送信方法の問題等とこれからの月例山行に向けた課題を問いかけられた原稿が今回は寄せられました。

「登った！よかった！」という感想だけにとどまらず、これから先の月例リーダーさんに参考になるような点も原稿に付け加えて頂けると、より一層充実した月例になるのではと思いました。

また、頂いた原稿を編集するにあたり、「登った山ではない写真を載せてるよ」と、担当されたリーダーさんから指摘されて訂正するといった裏話も今回ありました。

岐阜県民スポーツ大会の記事では、このコロナ禍の中で如何に大人数でのイベントの成功が難しいか、過去の大会の様子とは打って変わった雰囲気があるのではないかと思い、多治見で開催された第10回の大会の写真ページを思わず開いてみました。あの時はなんと優勝しましたものね。

4回の実践登山「山登り教室」を経て、新人研修へと発展していったイベントの成果が表れ、4名の新人会員の皆様を迎えられたという嬉しい報告もお届けする事ができました。

こうして多治見山岳会は、また一回り大きな会へと成長していきます。

《会報委員長》